

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4271401707
法人名	社会福祉法人平和会
事業所名	グループホームありま荘
所在地	長崎県南島原市北有馬町甲3181番地8 (電話) 0957-84-2174
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成21年2月4日

【情報提供票より】 (平成20年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 11月 1日
ユニット数	3 ユニット 利用定員数計 27 人
職員数	24 人 常勤23人, 非常勤 1人, 常勤換算12.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,400~17,050 円	その他の経費(月額)	900 円	
敷金	有(円) 〇無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 〇無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		700 円	

(4) 利用者の概要 (2月 4日現在)

利用者人数	27 名	男性	8 名	女性	19 名
要介護1	2 名	要介護2	10 名		
要介護3	11 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.4 歳	最低	69 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	森医院 立川歯科
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは島原半島の自然に囲まれた所に位置し、広々とした敷地内にある敷地内には日当たりのよい庭や足湯があり、日常的に散歩を楽しんだり、外気浴を楽しむ工夫がなされている。利用者も各々の特技を生かし書道や庭作業、家事を楽しんだり、また利用者自身がリクレーションを考えみんなで楽しんだり生き生きと暮らしている。職員は運営理念である「尊敬・愛情・優しさ・和」をしっかりと理解し、やさしく笑顔を大切に自らの介護と照らし合わせ、利用者が安心して暮らせる環境作りに励んでいる。それは職員自身が安心して勤務できるよう、ホーム側の職員への支援姿勢が確立されているからでもある。地域との関わりも積極的で、ホームへの訪問だけでなく、利用者と共に出かけたり、子供達と関わる機会を大切にしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の改善点はホーム長を中心に各ユニット管理者と共に作成し職員へ取り組みを伝えている。運営推進会議の定期的開催や市町村との連携など積極的に行われている。また家族への報告では現在ホーム便りの発行準備中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義は職員へ伝えられており、各ユニットの自己評価は管理者が中心となって作成され、全職員へ回覧し意見を聞き、介護姿勢の振り返りになっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回、南島原市職員、民生委員、包括支援センター職員、利用者家族、施設長、ホーム長、介護主任の出席で実施されている。外部評価の結果や利用者の生活状況、行事の報告や案内、職員の研修状況等の報告を行っている。議事録も詳しく残してある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関口に意見箱が設置され、重要事項説明書の中に外部の苦情窓口等の第三者機関と苦情解決の手順が明記されている。訪問時や電話で家族からの要望があった場合は、職員間や管理者をふまえて意見を交わし反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の小学校はお遊戯を、中学校、養護学校は体験学習の受け入れを行っている。夏祭りは事業所全体で行い地域の方が参加される。地域の文化祭には利用者の折り鶴やわらぼうし等を出品したり、みそ五郎祭りに行ったり、ボランティアの音楽や踊りの慰問があったりと、地域住民との交流がもたれている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「尊敬、愛情、優しさ、和」をホームの基本理念としている。利用者が地域の中で笑顔で暮らすために「家庭的な雰囲気ですぐに安心、生きがいのある日常生活を営むことができるように努めます」という独自の理念も作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関やリビングに理念を掲示し、日々の介護に取り組んでいる。家庭的な雰囲気の中で自立した安心、生きがいのある明るい日常生活を営むことができるように努めている。毎月の現場会議で基本理念を全員で復唱し意識付けを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の小学校はお遊戯を、中学校、養護学校は体験学習の受け入れを行っている。夏祭りは事業所全体で行い地域の方が参加される。地域の文化祭には利用者の折り鶴やわらざうり等を出展したり、みそ五郎祭りに行ったり、ボランティアの音楽や踊りの慰問があったりと、地域住民との交流がもたれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の改善シートをホーム長を中心に作成し現在改善に向け進行中である。自己評価は各棟それぞれのリーダーが記入し、職員は目を通してはいるが、作成までには至っていない。	○	自己評価を職員一人一人の介護の振り返りの手段として作成できるように、内部研修等でも課題にあげ、少しずつ分担しながらでも取り組むよう期待したい。

グループホーム ありま荘

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、南島原市職員、民生委員、包括支援センター職員、利用者家族、施設長、ホーム長、介護主任の出席で実施されている。外部評価の結果や利用者の生活状況、行事の報告や案内、職員の研修状況等の報告を行っている。議事録も詳しく残してある。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	南島原市福祉課職員との電話連絡等を頻繁に行い、利用者に関する情報交換や講習会などの連絡など連携ができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用料の請求書を送付している。金銭管理は事務所で預かり、領収書は原本をコピーして3～4ヶ月に一度残金の報告のときに送付している、家族の訪問時には近況報告をしている。遠方の家族へ定期的に電話で連絡を取っている。また利用者本人が家族へ電話をかけることもある。ホーム便りを報告手段に加えようとしているところである。	○	現在、ホーム便り（すまいる）の第2刊の発行準備中であり、今後家族への定期的な送付を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関口に意見箱が設置され、重要事項説明書の中に外部の苦情窓口等の第三者機関と苦情解決の手順が明記されている。訪問時や電話で家族からの要望があった場合は、申し送りに記載し職員間や管理者をふまえて意見を交わし反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は法人内の同敷地内の為、異動後も会うことができ馴染みの関係が継続している。毎月、朝の申し送り場所をユニット順に替えているため、職員はユニットに関わらず利用者と同顔馴染みになっている。		

グループホーム ありま荘

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議の後、外部研修報告会があり資料を回覧している。報告書と資料は職員が自由に閲覧できるようになっている。内部研修委員会があり法人全体の年間研修計画を立てている。またグループホーム連絡協議会や地区の介護福祉士会の外部研修にも参加している。職員の資格取得に向けシフト調整の支援をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南島原市グループホーム協議会に参加している。ホーム見学の依頼があれば受け入れている。また他のホームの見学で気づいた良い所は取り入れ、支援に活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始時に利用者本人に入居の理由や事情などを説明して納得の上利用開始している。家族からの情報をよく聞き、介護支援経過を1ヶ月詳しく記録して見守り支援し、その間も家族から情報提供を受けながら馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯物干しやたたみ、台拭き等を日課にしている利用者もいる。職員は利用者と毎日一緒に暮らしているという気持ちで接しており、利用者も職員が業務終了後には明日も来るよねと声をかけられる。作品作りも一緒に行い楽しんでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	朝からのレクリエーション時に、その日の希望を聞いている。会話の困難な利用者にも時間をかけ、ゆっくり聞きだしている。利用者同士の会話からも意向を把握することがある。知り得た情報は個人ケース記録に記入し職員間で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は毎月のケア会議で話し合われた内容と日々の記録の中の利用者の様子や要望を基に、サービス担当者会議で話し合われている。面会時に家族との話し合いや医師の意見を取り入れ作成している。新規利用の場合病院から入所の利用者についてはサマリーを取り入れて作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、長期計画は6ヶ月毎に見直している。毎月ケア会議で2～3人の見直しを行っており、利用者の状態や診察の後、医師からの指示があれば随時見直しがされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望で墓参り、法事や外出、外泊など柔軟に対応できており、家族と旅行する利用者もある。いきつけの美容室、買い物にも対応できている。		

グループホーム ありま荘

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に受診している。また月2回、医師の往診があり希望者は受診している。夜間緊急時の往診にも対応してもらえるようにしている。歯科、眼科は家族が受診に連れて行かれる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化が進んできた場合、各利用者の状況に合わせた対応表を作ってマニュアル化し、それに基づき職員は対応している。重度化や終末期に向けた方針は利用開始時に話し合いをしており、身体機能が落ちた場合に家族、本人、医師と話す場を設けているが指針や同意書の作成はない。	○	事業所としての看取りの指針を定め、家族との終末期・看取りに関する意思の確認のためにも指針・同意書の作成を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は守秘義務の誓約書を作成し、家族には個人情報保護遵守の説明をし同意書を作成してそれぞれ所定の場所に保管されている。利用者に対して声かけをする時は、大きな声や背後から、いきなり声かけをしない等、全職員が気をつけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の要望で午前中のレクリエーションを毎日かさね実施し、体調に合わせて支援している。参加したくない方は部屋でドリルや、裁縫、鶴を折ったりと楽しんでいる。またテレビの時代劇を楽しみにしている利用者も多く、好きなように時間を過ごすことができる。		

グループホーム ありま荘

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で取れた野菜を使ったりして、職員も同じテーブルで同じ食事を談笑しながら取っている。利用者の嗜好も把握され、メニューに取り入れ、状態に合わせ、きざみ食等も対応し提供している。台拭きや野菜の皮むき等の手伝いをすすんでしている利用者もある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回となっているが、希望があればいつでも対応できる。風呂嫌いな利用者や拒否があれば、時間をおき場所を変え声かけし誘導している。シャワー浴は24時間対応できる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の生活歴を基に役割などの支援のきっかけ作りを話したり、会話の中で分かったことを個人記録へ記載し情報を共有している。例えば、日記、ちぎり絵、貼り絵、ドリル、散歩や生け花、洗濯物干し、たたみをしている。紙を組み合わせる作鶴の置物は、利用者同士で教えあい楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの広い庭の散歩や外気浴を、定期的に取り入れ支援している。利用者の希望で、近くの湧き水を汲みに行くことを日課にしたり、ホーム周辺をドライブしたりしている。施設内の足湯につきりながら、景色を眺めたりできる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は日中はかけておらず、夜間のみ施錠する。職員はリビングにいて、利用者を絶えず見守っており、ホームから出た場合もそと後ろから見守り支援している。また地域にもホームは認識されており連携がとれている。		

グループホーム ありま荘

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、全体で避難訓練を実施し消防署や周辺地域とも連絡を取っている。火災、水害、地震の詳しい災害マニュアルと備品が完備されている。また抜き打ちで訓練が実施されることもあり、万に備えあわてず対応できるように努力している。大村の消防学校へ1泊2日の研修に、職員が交代で参加している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士の献立でバランスの取れた食事である。水分摂取量は一日1500～2000mlを目標にされている。食事量、水分量、排泄等は熱計表により、すぐに確認でき各人のバイタルチェックも十分に把握できている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たり良好で温度、換気も良くテレビの音量も適当である。季節の花が玄関、居間、食卓に活けられ、壁には利用者の作品の貼り絵等が飾ってあり、家庭的な雰囲気の中で過ごすことができている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者の状態により、畳をフローリングに変えたり、自宅から馴染みの日用品や家具を、自由に持ち込むことができる。また温度、湿度の管理もされ自由に居心地よく過ごせるよう支援している。		

※  は、重点項目。